

出穂前までの畦畔の草刈りの実施 こまめな水管理と適正な穂肥の

施用で良質の「たんなん米」を!

○ 倒伏対策 (コシヒカリ)

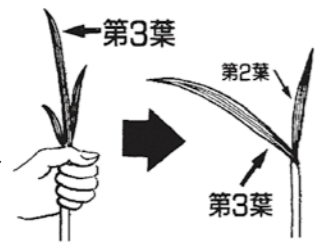
倒伏は、品質の低下、収穫のロスを引き生産面では大きなマイナスになります。大きな要因としては、「密植・過剰分けつ・窒素過多・徒長苗の植付・ケイ酸分の不足・根腐れ・紋枯病」があります。倒伏が懸念される場合は、倒伏軽減剤の散布を検討してください。

出穂前20日前後の上位第3葉の長さが45cm以上ある場合、倒伏の恐れがありますので「ロミカ粒剤」の使用を検討しましょう。

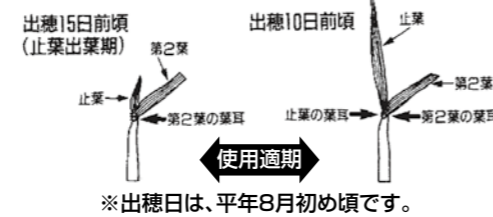
■ 上位第3葉の見分け方

(出穂前20日前後…平年7月10日頃)

葉鞘に沿って葉をまとめたとき
株元から最高位にある葉が
上位第3葉の場合が多い。



【出穂前の目安】



※出穂日は、平年8月初め頃です。



農薬名	使用量	使用時期
ロミカ粒剤	2~3kg/10a	出穂25~10日前

※5月半ば田植えでは、7月5日から20日頃が散布目安となりますが、早めの散布が効果的です。

○ 紋枯病の防除について

近年、紋枯病の発生が多発しています。紋枯病の菌核は地中で越冬しますので、前年・前々年に発生が確認された圃場は必ず防除を行い、新たに発病が発見された場合は、早急に防除を行ってください。高温・多湿条件下で多く見られ、過繁茂の稲体は発病を助長し、症状が進むと倒伏の危険性が増します。常に株元からの発病に注意してください。



農薬名	使用量	使用時期
リンバー粒剤	3~4kg/10a	収穫30日前まで

○ 大豆について

(畝間かん水)・・・着莢・登熟向上

・7月中旬以降、晴天が1週間程度続き、排水溝の底面が白く乾いたら畝間かん水を実施する。

・かん水は、排水溝を活用して排水側まで通水し、到達したらすぐに落水する。

・梅雨が明けたら、暗渠のフタを閉める。

乾燥による葉の裏返り→



(ウコンノメイガ)・・・「里のほほえみ」は葉色が濃いため、発生に注意

・葉が巻き始める若齢幼虫期(7月末~8月初旬)に防除する。

農薬名	使用量	使用時期
サイアノックス粉剤	4kg/10a	収穫7日前まで

○ 7月以降の水管理

収量・品質・食味の三拍子揃った「たんなん米」を生産するためには登熟を向上させる事が重要です。幼穂形成期以降(コシヒカリ)、収穫間際まで間断通水を実施してください。

特に、出穂期以降は新根の発生がほとんどなくなるため、現在ある根を刈取り時期まで維持する事が登熟向上や収量・品質の向上に向けて重要になってきます。

【水管理のポイント】

①穂ばらみ期から出穂期までは特に水を必要とするので湛水状態にする。

②出穂期以降も間断通水を継続し、根の活力維持を図る。

なお、出穂期から成熟期までの登熟期間が高温(日平均気温27℃以上)で推移する場合は、未熟粒や胴割粒の発生を助長するので、間断通水の間隔を狭めるなど気象や圃場条件に応じた水管理を実施する。

③台風の接近や通過が予想される場合は、事前に圃場への入水を実施し、フェーン現象による被害の軽減を図る。(台風通過後は速やかに排水する)

④通水は夕方から朝方とし、根の健全化につとめる。(日中は高温のため)

⑤天候の経過を見ながら、収穫間際まで間断通水を実施する。(早期落水厳禁)

(早期落水は、「胴割粒」や「未熟粒」が発生し、品質低下を招きます)

7~8月は、農業用水の計画的利用と節水につとめましょう。

<異常気象対策>

稲は気温が30℃を超えると光合成ができず、十分にデンプンを作ることができません。高温障害・日照不足の影響を受けたお米は乳白米や不稔籾の発生、登熟歩合の低下の要因となり減収や品質低下を招く原因となります。

・稲の過繁茂防止につとめる。

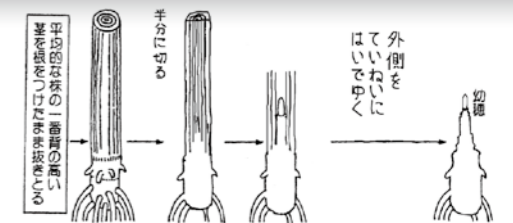
・こまめな水管理で根の機能活力維持を図り、夜間通水で圃場内の夜温を下げる。

・登熟期に肥効が切れないう穂肥を適正に施用する。

○ 穂肥(分施の場合)

【適期の判断】

穂肥の施用時期は、品種や生育状況によって圃場ごとに異なります。また、施用時期を大きく外してしまうと倒伏や減収の原因となりますので、必ず幼穂長を確認して、適期を判断しましょう。



【穂肥の施用量】

(「新工コ追肥」:10a当たり)

品 種	幼穂長	1株の茎数	葉 色	穂肥1回目	穂肥2回目
ハナエチゼン	2mm	—	—	15kg(6月下旬)	15kg(7月上旬)
コシヒカリ	15mm	22~25本(適正) 条間が手前30~50m くらいまで見える。	3.5	15kg(7月下旬)	15kg(7月下旬)
			4.0	10kg	15kg
		26本以上(多い)	3.5	10kg	15kg
		4.0	7kg	10kg	
		条間が見えない。	4.0以上	施用しない	状態を見て施用
あきさかり	2mm	—	—	15kg(7月中旬)	15kg(7月下旬)

【一括肥料の留意点】

田植え時に施用量を減らした圃場では、葉色・草丈の状態を見て1回目から2回目の穂肥時期に「新工コ追肥」を追加で5~8kg/10a施用しましょう。